

# Chapter

# 9

**単語・熟語数：173**

**文法のテーマ：分詞**

「形容詞」や「副詞」の働きをする「動詞のing形」を「現在分詞」と呼びます。「過去分詞」にも「形容詞」や「副詞」の働きがあります。

現在分詞は「…している」「…して」という能動態の意味を持ち、過去分詞は「…された」「…されて」という受動態の意味を持ちます。

# Lesson 91

## 👍 現在分詞の形容詞用法

まず始めに、これまでに学習した「動詞のing形」と、このChapterで学習する「動詞のing形」を表にまとめておきます（「Ving」は「動詞のing形」のこと）。  
A～Cは既に学習した項目です。

	働き	Vingが置かれる場所	Vingの意味
A	動詞	be動詞の後ろ	(Lesson 21～23, 25を参照)
B	動詞	第5文型(SVOC)の補語(C)	(Lesson 47, 48を参照)
C	名詞	名詞が置かれる場所	(Lesson 82～90を参照)
D	形容詞	名詞の前か後ろ	Vする、Vしている
E	副詞	動詞(句)や文の後ろ、及び文の前	Vして、Vしながら

(注) Aは「現在進行形」や「過去進行形」、Cは「動名詞」です。

DとEはこのChapterで学習するVingの使い方で「**現在分詞**」と呼ばれます。現在分詞には「**形容詞**」と「**副詞**」の2つの働きがありますが、このレッスンではまず、「形容詞」の働きをする「現在分詞」について見ていくことにします。

例として、bark、walk、smileという3つの動詞を「…する」「…している」という意味の形容詞である「現在分詞」に変えてみます。

動詞		現在分詞
bark (吠える)	→	<b>barking</b> (吠える、吠えている)
walk (歩く)	→	<b>walking</b> (歩く、歩いている)
smile (微笑む)	→	<b>smiling</b> (微笑む、微笑んでいる)

これらの現在分詞は形容詞なので、後ろの名詞を修飾することができます。例文で確認しましょう。

① Barking dogs hardly ever bite.

⇒ 吠える犬達はめったにない・噛みつくことが。

→ 吠える犬はめったに噛みつかない。

② This T-shirt is a walking advertisement for our organization.

⇒ このTシャツは・である・歩く広告・我々の組織にとっての。

→ このTシャツは我々の組織にとっての歩く広告塔です。

③ We will miss your smiling face. May you rest in peace.

⇒ 私達は(今後)・ないのを寂しがる・あなたの微笑む顔が。あなたが休みますように・平穩に。

→ あなたの笑顔が見られないのが寂しいけど、どうか安らかに眠ってください。

このような、「一語」で名詞の「前」に置かれる現在分詞は(原則として)名詞を分類する働きをします。①の Barking dogs は「吠える(タイプの)犬」、②の walking advertisement は様々な広告がある中での「歩く広告」、③の smiling face は「怒った顔」「悲しんだ顔」など様々な顔がある中での「微笑む顔」です。

他方、「今…している(最中の)」「その時…していた」と、ある特定の時点で起きていることを述べる場合は、現在分詞を名詞の「後ろ」に置きます。例えば、「今(遠くで)吠えている犬」は a dog barking (far away) とします。「今(あそこで)泳いでいる少年」なら the boy swimming (over there) とします (swimming boy は「泳ぐ少年」「水泳少年」という少年のタイプを表し、「今泳いでいる」という意味にはなりません)。また、現在分詞を名詞の後ろに置く場合は、far away や over there のような「現在分詞を修飾する語句」を現在分詞の後ろに置いた方が、現在分詞が名詞を修飾していることが理解しやすくなります。

●● NOTE 現在分詞と動名詞の形容詞的用法の区別

このレッスンで学習した「名詞の前に置く現在分詞」と Lesson 90 で学習した「動名詞の形容詞的用法」は構造が全く同じなので、「意味」から区別する必要があります。次の4つの表現で練習しましょう。

1. a walking stick (歩行棒 → 杖)
2. a living thing (生き物)
3. a moving company (引っ越し業者)
4. a flying carpet (空飛ぶ絨毯)
5. a swimming instructor (水泳(の)インストラクター)

1は**動名詞**です(現在分詞だと「歩く棒」になり「棒が歩く」ことになります)。2は**現在分詞**です(「物が生きている」という現在分詞の関係が成立しています)。3は**動名詞**です(現在分詞だと「引っ越し業者」になり「業者(自身)が引っ越す」ことになります)。4は**現在分詞**です(「絨毯が空を飛ぶ」という関係が成立)。5は**動名詞**です(現在分詞だと「泳ぐインストラクター」になり「水泳のインストラクター」になりません)。

## ●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>bark</b> [bɑ:k]   | <b>動</b> (犬・キツネなどが) 吠える <b>名</b> 吠え声                                    |
| <input type="checkbox"/> <b>hardly ever</b> [hɑ:rdli]                                     | <b>副</b> めったに…しない ( <b>同</b> seldom, rarely)                            |
| <input type="checkbox"/> <b>bite</b> [baɪt]   | <b>動</b> 噛みつく、…を噛む <b>名</b> 噛む[かじる]こと                                   |
| <input type="checkbox"/> <b>advertisement</b><br>[ædvə:táizmənt,<br>ædvó:rtis- ædvó:tis-] | <b>名</b> 広告、宣伝 ( <b>動</b> advertise [ædvə'taɪz] (…の) 宣伝[広告]をする)         |
| <input type="checkbox"/> <b>organization</b><br>[ɔ:rgənəzéiʃn   ɔ:gəni-]                  | <b>名</b> 組織、団体、機関、機構 ( <b>動</b> organize [ɔ:rgənaɪz] …を組織[編成]する、…を整理する) |
| <input type="checkbox"/> <b>miss</b> [mɪs]  | <b>動</b> …が(い)ないのを寂しがる、…が恋しい  |
| <input type="checkbox"/> <b>May</b> 主語 <b>Vb.</b>   | <b>慣</b> <主語>がVしますように。  |
| <input type="checkbox"/> <b>rest</b> [rést]   | <b>動</b> 休む、休息する <b>名</b> 休息、休養   |
| <input type="checkbox"/> <b>in peace</b> [pi:s]   | <b>副</b> 平和に、平穩に、安らかに、安心して  |



④ **Wow, that sounds exciting!**

S V C

⇒ うわー・それは響きがある・人をワクワクさせる。

→ うわー、それって面白そう!

⑤ **Whew! Teaching small kids is really tiring.**

S V C

⇒ ふー・教えること・小さな子供達に・は本当に人を疲れさせる。

→ ふー。小さな子供に教えるのはほんとに疲れるわ。

\* 動名詞が導く句(下線部)は単数扱いするので動詞は is になります。複数名詞 kids につられて are にしないように注意してください (Lesson 82①\*を参照)。

⑥ **Mike finds math interesting.**

S V O C

⇒ Mike は思っている・数学が・人の興味をかきたてると。

→ Mike は数学を面白いと思っている。

●● VOCABULARY

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 've got                               | 慣 ((口語) …を持っている)  |
| <input type="checkbox"/> you all                               | 代 君達(全員)、皆さん (* you は一般に単数の「あなた」を意味するので、複数の「あなた達」「皆さん」は you all とすることが多い) |
| <input type="checkbox"/> anyway [éniwèi]                       | 副 とにかく、いずれにしても  |
| <input type="checkbox"/> conversation<br>[kánvərséifən   kǎn-] | 名 会話、話し合い (形 conversational [kánvərséifənl   kǎn-] 会話の)                   |
| <input type="checkbox"/> make 行為の名詞                            | 動 <行為>を行う [する]  |
| <input type="checkbox"/> rather [ráðər   rá:ðə]                | 副 かなり、ずいぶん  |
| <input type="checkbox"/> announcement<br>[ənáunsmənt]          | 名 発表、お知らせ、アナウンス (動 announce [ənáuns] …を発表[公表]する)                          |
| <input type="checkbox"/> whew [hwjú:]                          | 間 ふー、やれやれ、ひゃあ (*驚き・失望・安堵・疲労などを表す口笛に似た声)                                   |
| <input type="checkbox"/> find                                  | 動 (経験して) …が〜だとわかる [思う、感じる]  |
| <input type="checkbox"/> math [máθ]                            | 名 ((米口語) 数学 (同 ((英口語) maths [máθs])                                       |







# Lesson 94

## 過去分詞の形容詞用法

最初に、これまでに学習した過去分詞と、この Chapter で学習する過去分詞について整理しておきます。A～Cは既に学習した項目です。

	働き	過去分詞が置かれる場所	意味
A	動詞	have [has, had] の後ろ	(Lesson 26～30を参照)
B	動詞	第5文型 (SVOC) の補語 (C)	(Lesson 47, 48を参照)
C	動詞	be 動詞の後ろ	(Lesson 55～65を参照)
D	形容詞	名詞の前か後ろ	Vされた、Vされている
E	副詞	動詞(句)や文の後ろ、または文の前	Vされて、Vされながら

(注) Aは現在[過去]完了形、Cは受動態です。

DとEはこの Chapter で学習する過去分詞の使い方です。まず、Dの「**形容詞**」の働きをする過去分詞について見ていきます (Eの「**副詞**」の働きは Lesson 98以降で学習します)。「形容詞」として用いる過去分詞は「**…された**」「**…される**」という**受け身**の意味になります。例として、動詞の break、tear、write、speak を過去分詞にしてみます。

動詞		過去分詞 (=形容詞)
break (…を割る)	→	<b>broken</b> (割られた、割れた)
tear (…を破る)	→	<b>torn</b> (破られた、破れた)
write (…を書く)	→	<b>written</b> (書かれた、書かれる)
speak (…を話す)	→	<b>spoken</b> (話された、話される)

これらの過去分詞は「**形容詞**」として (Lesson 91で学習した1語の現在分詞と同様) 後ろの名詞を修飾することができます。次の例文で、過去分詞が後ろの名詞を修飾していることを確認してください。





●● NOTE 感情の他動詞の過去分詞と現在分詞の区別

このレッスンで学習した「感情の他動詞」の「過去分詞」は「自分自身が抱く感情」を表すのに対し、Lesson 92の「感情の他動詞」の「現在分詞」は「人に与える感情」を表します。例えば、「私はワクワクしている」は「私自身が抱いている感情」なので I'm excited. です。I'm exciting. だと「人に与える感情」になり、「私は人をワクワクさせる (人間だ)」になります。例文③の a bored look (退屈な表情) の bored は「Bob 自身が抱いている感情」を表しています。これを a boring look にすると「人を退屈させる表情」になってしまいます。

●● VOCABULARY

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> <b>have</b> … 形容詞              | 動 | ((第5文型)) …を<形容詞>の状態にしている               |
| <input type="checkbox"/> <b>brochure</b> [brəʊʃʊə]      | 名 | パンフレット、カタログ、小冊子                        |
| <input type="checkbox"/> <b>available</b> [ə'veɪləbl]   | 形 | (物が) 利用 [使用、入手] できる、(人が) 手が空いている、対応できる |
| <input type="checkbox"/> <b>customer</b> [kʌstəmə]      | 名 | (商品やサービスを購入する) 客、顧客                    |
| <input type="checkbox"/> <b>thousands of</b> [θaʊzənzd] | 形 | 数千の (形 <b>hundreds of</b> 数百の)         |
| <input type="checkbox"/> <b>gather</b> [gə'teɪə]        | 動 | 集まる、集合する、…を集める、…を収集する                  |
| <input type="checkbox"/> <b>greet</b> [gri:t]           | 動 | …を出迎える、…に挨拶をする                         |
| <input type="checkbox"/> <b>stare (at …)</b> [steə]     | 動 | (…を) じっと見つめる                           |
| <input type="checkbox"/> <b>ceiling</b> [si:lɪŋ]        | 名 | 天井、上限                                  |
| <input type="checkbox"/> <b>a 形容詞 look</b>              | 名 | <形容詞>な表情 [外見]                          |

(5) Thousands of excited fans gathered to greet the group.

数千の興奮したファンが集まり、グループを出迎えるために集まった。

(3) Bob was staring at the ceiling with a bored look on his face.

Bobは天井をじっと見つめて、退屈した表情で顔を赤らめていた。



これらの「名詞+過去分詞句」を例文で確認しましょう。

① **Steve was working at a desk covered with papers and notes.**

⇒ Steve は作業をしていた・机で・覆われた・書類とメモで。

→ Steve は書類やメモで覆われた机で作業をしていた。

② **Families interested in participating can call 582-693-104.**

⇒ 家族・興味がある・参加することに・は電話することができる・582-693-104 に。

→ 参加に興味のあるご家族は 582-693-104 にお電話ください。

\* 主語 (Families) の後ろの過去分詞 (interested) を述語動詞と勘違いしないように注意してください。述語動詞は call です。

③ **This system helps to prevent crashes caused by human error.**

⇒ このシステムは助ける・防ぐことを・衝突事故を・引き起こされる・人間のミスによって。

→ このシステムは人為的ミスによる衝突事故を防ぐのに役立っている。

過去分詞句が前の名詞を修飾する形で最もよく用いられるのは、例文③のような「過去分詞 + by …」(…によって～された) の形です。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>at</b>                                   | <b>前</b> … (の所) で (*物を場所に変わる働きをする)   |
| <input type="checkbox"/> <b>papers</b> [ˈpeɪpəz]                     | <b>名</b> ((複数形で)) 書類、(公式) 文書、身分証明書   |
| <input type="checkbox"/> <b>note</b> [nəʊt]                          | <b>名</b> メモ、覚え書き (*「ノート」は notebook)  |
| <input type="checkbox"/> <b>participate (in …)</b><br>[pɑːtɪsəˈpeɪt] | <b>動</b> (…に) 参加 [出場] する ( <b>同</b> take part (in …))<br><b>名</b> <b>participation</b> [pɑːtɪsəˈpeɪʃn] 参加、出場 |
| <input type="checkbox"/> <b>help to Vb</b>                           | <b>動</b> V するのを助ける ( <b>同</b> help Vb)   |
| <input type="checkbox"/> <b>prevent</b> [prɪˈvent]                   | <b>動</b> …を防ぐ [阻む] ( <b>名</b> <b>prevention</b> [prɪˈvenʃən] 防止)   |
| <input type="checkbox"/> <b>crash</b> [kræʃ]                         | <b>名</b> 衝突 [墜落] (事故) <b>動</b> 衝突する、…を衝突させる  |
| <input type="checkbox"/> <b>cause</b> [kɔːz]                         | <b>動</b> …をもたらす、…を引き起こす <b>名</b> 原因、要因   |
| <input type="checkbox"/> <b>human</b> [ˈhjuːmən]                     | <b>形</b> 人間 [ヒト] の、人間的な、人的な <b>名</b> 人間  |
| <input type="checkbox"/> <b>error</b> [ɪˈrɔː]                        | <b>名</b> 誤り、間違い、ミス   |









●● NOTE 前置詞と同じ働きをする現在分詞

動詞句 include … (…を含む) を現在分詞句にした including … は、「…を含めて」という「副詞句」と「…を含む」という「形容詞句」の2通りで用いられます。この「後ろに名詞〔代名詞〕をとって全体が副詞句か形容詞句になる働き」は「前置詞」と同じなので、including を「前置詞」と見なすことができます。このような「現在分詞から転じた前置詞」には次のようなものがあります。

	副詞句	形容詞句
including …	…を含めて	…を含む
following …	…の後に	…の後の
regarding …	…に関して	…に関する
concerning …	…に関して	…に関する

各表現を例文で確認しましょう。

③ Our budget is under 25,000 dollars, including tax.

⇒ 私達の予算は・である・未満・2万5千ドル・を含めて・税金。

→ 私達の予算は税込で2万5千ドル未満です。

\* 下線部は副詞句。前にカンマを置いた方が副詞句であることがわかりやすい。

④ Following his military service, Hank took over the family business.

⇒ の後・彼の軍隊の任務・Hankは引き継いだ・家族会社を。

→ 兵役後、Hankは家族が経営する会社を引き継いだ。

\* 下線部は副詞句で後ろの文を修飾。FollowingはAfterに置き換えが可能です。

⑤ Do you have any suggestions regarding this matter?

Do you have any suggestions concerning this matter?

⇒ あなたは持っていますか?・いかなる提案でも・に関して(の)・この事柄。

→ この件に関して何か提案などありますか?

\* 下線部は形容詞句にも副詞句にも解釈ができます(このような場合は厳密な区別にこだわる必要はありません)。

●● VOCABULARY

<input type="checkbox"/> <b>strain</b> [streɪn]	動 …を引っ張る、…に負担をかけて痛める
<input type="checkbox"/> <b>muscle</b> [mʌsl]	名 筋肉、筋、筋力、威力
<input type="checkbox"/> <b>lift</b> [lɪft]	動 …を持ち [引き、担ぎ] 上げる 名 持ち上げ
<input type="checkbox"/> <b>file cabinet</b> [faɪl kæbɪnɪt]	名 書類整理棚 (同 <b>filig cabinet</b> [faɪlɪŋ])
<input type="checkbox"/> <b>unable (to Vb)</b> [ʌnəbəl]	形 (Vすることが) できない
<input type="checkbox"/> <b>reply</b> [rɪplaɪ]	動 返答 [返事、返信] をする 名 返答、返事、返信
<input type="checkbox"/> <b>shock</b> [ʃɒk]	動 …にショックを与える 名 ショック、衝撃
<input type="checkbox"/> <b>budget</b> [bʌdʒɪt]	名 予算、予算額
<input type="checkbox"/> <b>under</b>	前 …未満 (*「…」の数字を含まない)
<input type="checkbox"/> <b>tax</b> [tæks]	名 税金、税
<input type="checkbox"/> <b>military</b> [mɪlɪtəri / -təri]	形 軍の、軍隊の、軍事的 名 軍隊、陸軍
<input type="checkbox"/> <b>service</b> [sɜːrvɪs]	名 (義務的な) 勤め、任務、奉仕、役立ち、尽力
<input type="checkbox"/> <b>take (…)</b> over	動 (…を) 引き継ぐ (*例文④では他動詞)
<input type="checkbox"/> <b>business</b> [bɪznɪs]	名 ビジネス、商取引、事業、業務、会社、企業
<input type="checkbox"/> <b>suggestion</b> [səgdʒestʃən   sədʒestʃən-]	名 提案、助言、示唆 (動 <b>suggest</b> [səgdʒest   sədʒest] …を提案 [示唆] する)
<input type="checkbox"/> <b>matter</b> [mætər]	名 (考慮・検討すべき) 事柄 [事項、問題]

# Lesson 99

## 👉 現在分詞の副詞用法：慣用的な表現

次の例文の現在分詞句(赤の下線部)は副詞句として動詞(句)を修飾しています。

### ① The Smiths are busy preparing for their annual picnic.

- ⇒ スミス家の人々は忙しい・準備をしながら・のために・彼らの年に一度のピクニック。  
 → スミス家は今、毎年恒例のピクニックの準備で忙しい。

### ② Joe lay on his stomach reading a Japanese comic book.

- ⇒ Joeは横たわっていた・彼の腹を接触させて・読みながら・日本のコミック本を。  
 → Joeはうつ伏せに横たわり、日本のコミック本を読んでいた。  
 \* layは自動詞lieの過去形。他動詞layとの活用の違いに注意 (R18 参照)。

①の (be) busy や、②の lie は、副詞の「現在分詞」(Ving) と一緒によく用いられるので、「(be) busy Ving」「lie Ving」で一つの慣用表現と見なすことができます。このタイプの慣用表現には、次のようなものがあります。

「忙しい」	<b>be busy Ving</b>	(Vするのに忙しい)
「いる、ある」	<b>be + 場所の副詞(句) + Ving</b>	(Vしながら…にいる)
	<b>lie (+ 副詞(句)) Ving</b>	(Vしながら(…に)横たわる)
	<b>sit (+ 副詞(句)) Ving</b>	(Vしながら(…に)座る)
	<b>stand (+ 副詞(句)) Ving</b>	(Vしながら(…に)立つ)
「費やす」	<b>spend … Ving</b>	(Vして…を費やす)
	<b>waste … Ving</b>	(Vして…を浪費する)
	<b>kill + 時間 + Ving</b>	(Vして<時間>をつぶす)
「楽しむ」	<b>have fun Ving</b>	(Vして楽しむ)
「苦勞する」	<b>have trouble Ving</b>	(Vするのに苦勞する)
	<b>have difficulty Ving</b>	(Vするのに苦勞する)
	<b>have a hard time Ving</b>	(Vするのに苦勞する)

③ As always, Mike was in the front yard practicing baseball.

⇒ いつものように・Mike はいた・玄関前の庭に・練習しながら・野球を。

→ いつものように、Mike は玄関前の庭で野球の練習をしていた。

④ Mike, don't waste time playing video games!

⇒ Mike・無駄にしてはいけない・時間を・行って・テレビゲームを。

→ Mike、ゲームなんかして時間を無駄にしてはいけません！

⑤ He has trouble focusing on distant objects.

⇒ 彼は経験している・困難を・焦点を合わせるのに・遠くの物に。

→ 彼は遠くの物が見えづらい。

\* trouble を difficulty もしくは a hard time にすることもできます。

●● VOCABULARY

the 名字s

[名] <名字>家の人々

prepare (for ...)

[pɹɪˈpeə]

[動] (…のために) 準備[用意]をする (形 prepared 準備[用意]ができています)

annual [ænjʊəl]

[形] 年に一度の、年次の、年間の

picnic [pɪknɪk]

[名] 野外[行楽]での食事、ピクニック

on one's stomach

[st.ʌmək]

[副] うつ伏せ[腹ばい]になって (名 stomach 胃、おなか [副] on one's back 仰向けになって)

as always

[副] いつものように (同 as usual)

front yard [frʌnt jɑ:rd]

[名] 前庭、玄関前の庭 (名 back yard 裏庭)

practice [ˈpræktɪs]

[動] 練習する、…を練習する [名] 練習、実践、慣例

video game [vɪdiəʊ]

[名] ディスプレイを使う電子ゲーム、テレビゲーム

focus on ... [ˈfóukəs]

[動] …に焦点を合わせる、…に集中する

distant [dɪstənt]

[形] (距離的・時間的に) 遠い、遠くの

object [ˈɒbdʒekt]

[名] 物体、物、対象、目的、目的語



⇒ 彼のアパートはある・中心部に・ロンドンの・囲まれて・劇場に・レストランに・そしてバブに。

→ 彼のアパートはロンドンの中心部にあり、劇場や飲食店やバブに囲まれている。

\* surroundedの前にカンマを置いたのは、surroundedが直前の名詞 London を修飾するのではなく is を修飾していることをわかりやすくするためです。

\* 意訳(⇒)は英語の修飾関係よりも日本語としての自然さを優先しています。

「動詞(句)の後ろ」及び「文末」の分詞は、**述語動詞の「後」の出来事**を補足的に表すのにも使います。この意味では、分詞の前にカンマを置くのが一般的です(発音する時はカンマで一呼吸置きます)。

主語(S) + 述語動詞(V) ..., <b>現在分詞</b> .	(SはVして、 <b>その結果…する</b> ) (SはVして、 <b>そして…する</b> )
------------------------------------	---

主語(S) + 述語動詞(V) ..., <b>過去分詞</b> .	(SはVして、 <b>その結果…される</b> ) (SはVして、 <b>そして…される</b> )
------------------------------------	---

(注) 過去分詞がこの意味で用いられることは多くありません。

次の2つの分詞構文では、分詞が述語動詞より「後」のことを述べています。

④ **Arsenal managed to add another goal, making the final score 2-0.** managed to add の結果

⇒ アーセナルは何とか行った・加えることを・もう1ゴールを・(その結果)した・最終スコアを・2対0に。

→ アーセナルはなんとか追加点をもぎ取り、2対0で試合を終えました。

\* これはアナウンサーのことばです。報道の英語では、現在分詞を文末で用いて前の文の結果を述べる分詞構文がよく用いられます。

\* makingは第5文型の用法です。得点を表す0は((米))ではnothingかzeroと読みますが、((英))ではたいていnilと読みます。

⑤ **Each participant made a 20-minute presentation, followed by a question-and-answer session.** made の後

⇒ 各参加者は行った・20分のプレゼンテーションを・そして・続かれた・質問と答えの時間によって。

→ 参加者はそれぞれ20分間のプレゼンテーションを行い、その後には質疑応答が行われた。

\* followedの主語はEach participantではなくpresentationです。分詞構文で用いられる分詞の主語は文の主語と一致しますが、followed by...は例外です。

- have difficulty** Ving  
[dɪfɪkəlɪtɪ -kəl-]
- adjust (to ...)** [ədʒʌst]
- kindergarten** [kɪndərgɑ:rtʃn]
- Oh my (God)!** [gʊd] gʊd]
- be dressed** [drɛst]
- flat** [flæt]
- centre** [sɛntə]
- surround** [səraʊnd]
- theatre** [θiətə]
- manage to Vb** [mænɪdʒ]
- add ... (to ~)** [æd]
- another** [ənəðə]
- final** [faɪnl]
- A-B / A to B**
- each** [i:tʃ]
- participant** [pɑ:rtɪsɪpənt]
- make**
- ...-minute [-hour, -day, -week, -month, -year]**
- presentation**  
[prɛzntɛɪʃn, pri:zen-]
- follow** [fɒləʊ] fɒl-]
- question-and-answer session** [sɛʃən]
- 動** Vするのに苦労する[手こずる] (\*ややフォーマルな表現)
- 動** (...に) 適応[順応] する、(...に) 慣れる
- 名** 幼稚園
- 間** まあ! おや! (\*驚き・喜びなどを表す)
- 動** 服を身につけている (\*どんな服装かを述べるのに用いるので後ろに修飾語句を置く)
- 名** ((英)) アパート、マンション **形** 平らな  
(同((米)) **apartment** [əpɑ:rtmənt])
- 名** ((英)) 中心、中点、中心街 (\* ((米)) の綴りは center。((米))((英)) の綴りの違いは R19)
- 動** ...を取り囲む
- 名** ((英)) 劇場、映画館 (\* ((米)) の綴りは theater)
- 動** どうにか[なんとか] Vする
- 動** ...を(〜に) 付け加える(**名** **addition** [ədɪʃən] 付加)
- 形** 別の一つ[一人]の **代** 別の一つ[一人]
- 形** 最終の、最後の、確定の **名** 決勝戦、期末試験
- 慣** A対B
- 形** それぞれの、各 **代** それぞれ、各自
- 名** 参加者 (**動** **participate** [pɑ:rtɪsɪpèɪt] 参加する)
- 動** ((動作を表す目的語をとり)) ...を行う、...する
- 形** ...分間[時間、日間、週間、ヶ月、年間]の(\*後ろの名詞を修飾する。「...」が複数であっても minute, hour, etc. は単数形にする)
- 名** 提示、発表、プレゼンテーション、贈呈(式)  
(**動** **present** [prɪzɛnt] (...を) 提示[贈呈] する)
- 動** ...に続く、...の後を追う (\* 「(be) followed by ...」(...が後に続く) でよく用いられる)
- 名** 質疑応答の時間 (**名** **session** (ある活動のための) 時間、集まり)







⑥ Cathy and Andy, sitting across from each other, were

were と同時点

both silent.

⇒ Cathy と Andy ・ 座りながら ・ 横断して ・ お互いから ・ は両方とも沈黙していた。

→ Cathy と Andy は向かい合わせに座り、共に沈黙していた。

\* 例文③の主語は代名詞 they ですが、ここでは Cathy and Andy に変えています。この構造の分詞構文は、分詞が述語動詞を修飾する「副詞」の役目をすると共に、主語の名詞を修飾する「形容詞」の役目もします。形容詞は代名詞を修飾できないので、They, sitting ..., were both silent. という形は避けた方が無難です。

●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> surprised [sə'praɪzd]    | 形 驚いている、びっくりしている  |
| <input type="checkbox"/> excited [ɪk'saɪtɪd]      | 形 ワクワクしている、興奮している   |
| <input type="checkbox"/> across from              | 前 …の向かい側に、…の反対側に  |
| <input type="checkbox"/> each other [i:tʃ ə'dɔ:ə] | 代 お互い (同 one another)   |
| <input type="checkbox"/> both [bəʊθ]              | 代 両方 副 両方が、両方とも (*例文③⑥では副詞。副詞で用いる場合、動詞が be 動詞ならその後に置き、一般動詞ならその前に置く)   |
| <input type="checkbox"/> silent [saɪlənt]         | 形 音のない、無言 [無声] の、沈黙した   |
| <input type="checkbox"/> fridge [frɪdʒ]           | 名 冷蔵庫 (* refrigerator の略語)  |
| <input type="checkbox"/> take ... out             | 動 …を取り出す、…を持ち出す、…を連れ出す、<食べ物>をテイクアウトする   |
| <input type="checkbox"/> piece of 不可算名詞<br>[pi:s] | 名 <不可算名詞>の一つ [一切れ、一片] (* 2つ [3つ] の場合は two [three] pieces of ... とする)  |
| <input type="checkbox"/> chicken [tʃɪkən]         | 名 ((可算) (個体の) 鶏、((不可算) 鶏肉 (* 個体の「鶏」には一羽と認識できる形があるので可算名詞だが、「鶏肉」(牛肉、豚肉なども同様) にはそれと識別できる形がないため、数える感覚がなく、よって不可算名詞になる) |

# Lesson 102

## 👍 分詞構文：完了形

次の2つの受動態を見てください。

**Mr. Lee was brought up in Australia.**

(Leeさんはオーストラリアで育った)

**He was born in Hong Kong.**

(彼は香港で生まれた)

2番目の文の born は過去分詞です。この文から、born in Hong Kong という過去分詞句を取り出し、「香港で生まれ(て)」という副詞句として1番目の文の文頭に置くと、次のような分詞構文ができあがります。

### ① Born in Hong Kong, Mr. Lee was brought up in Australia.

⇒ 生まれて・香港で・Leeさんは育てられた・オーストラリアで。

➔ Leeさんは香港で生まれ、オーストラリアで育った。

\* Mr. Lee, born in Hong Kong, was brought up in Australia.とすることもできます。

次は、以下の2番目の文を分詞句に変えて副詞句とし、1番目の文の文頭に置いた分詞構文を作りたいと思います。どうすればよいか考えてみてください。

**Ted didn't drive himself home.**

(Tedは自分で車を運転して帰宅することはしなかった)

**He had drunk a bit.**

(彼は少し酒を飲んでいた) (\* had drunk は大過去で1番目の文より以前を表す)

これを、Drinking a bit, Ted didn't drive himself home. にすると、Drinking が「酒を飲みながら」という意味で述語動詞 (didn't drive) と「同時点」のことを述べているように聞こえます。そこで、**述語動詞より「以前」**であることを明確にするために、「完了形の分詞」(**having Vp.p.**)を用いて、次のように表現します。

### ② Having drunk a bit, Ted didn't drive himself home.

述語動詞より「前」のこと

述語動詞

⇒ それ以前に酒を飲んでいて・少し・Ted は車で運ばなかった・彼自身を・自宅へ。  
→ 少し酒を飲んだ Ted は、自分で車を運転して帰宅することはしなかった。

同じように、以下の2番目の文を分詞句に変えて副詞句とし、1番目の文の文頭に置いた分詞構文を作ってみましょう。

### **Fred knows how to convince people.**

(Fred は人を納得させる方法を知っている)

### **He has been a successful lawyer.**

(彼は現在までずっと成功してきた弁護士である)

2番目の文の has been は「継続」を表す現在完了形です。「**現在完了形**」や「**過去完了形**」の意味を分詞で表現する場合も「**完了形の分詞**」を用います。

#### ③ **Having been a successful lawyer, Fred knows how to**

述語動詞の時点までの「継続」

述語動詞

#### **convince people.**

⇒ 今までずっと・であったが・成功している弁護士・Fred は知っている・どのようにして納得させるかを・人を。

→ 弁護士として成功してきた Fred は、人を納得させる方法をわかまえている。

次の例文の完了形の分詞 Having filled は、「すでに…をいっぱいにし終えていた」という「過去完了形」の完了・結果の用法を表しています。

#### ④ **Having filled the dishwasher, Steve switched it on.**

述語動詞の時点での「完了・結果」

述語動詞

⇒ いっぱいにし終えて・食器洗い機を・Steve はスイッチを押した・それを・オンに。

→ 食器洗い機をいっぱいにして、Steve はスイッチを入れた。

今度は、次の2番目の文を分詞句に変えて、1番目の文の「**文末**」に置いてみます。過去完了形 had failed は、過去形 passed までの「経験」を表しているため、「完了形の分詞」を用います。

### **Betty passed her driving test.**

(Betty は運転免許試験に合格した)

### **She had failed twice before.**

(彼女はそれ以前に2度失敗していた)

⑤ Betty passed her driving test, having failed twice before.

述語動詞

述語動詞の時点までの「経験」

- ⇒ Betty は合格した・彼女の運転試験に・(ちなみに) 失敗していた・二回・以前に。  
 → Betty は運転免許試験に合格した。その前は二度不合格だったが。

まとめると、「完了形の分詞」(having Vp.p.) は、次の2つのことを表します。

(A) 述語動詞が表す時点より「前(=過去)」のこと

(B) 述語動詞が表す時点までの「完了・結果・経験・継続」

「完了形の現在分詞」には、さらに、「受動態」(having been Vp.p.) と「進行形」(having been Ving) がありますが、構造が複雑なのであまり用いられません。ちなみに、例文①は、過去分詞「born」が述語動詞「was brought up」よりも「前」のことなので、「完了形の受動態」である「having been born」にすべきところですが、born (生まれた) が was brought up (育った) より「前」なのは言うまでもないので、わざわざ(複雑な形である)完了形を用いる必要はありません。

●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>be born</b> [bɔ:rn]               | <input type="checkbox"/> 生まれる (動 <b>bear</b> …を生む)                                      |
| <input type="checkbox"/> <b>bring ... up</b>                  | <input type="checkbox"/> …を育てる、<話>を持ち出す (同 <b>raise</b> )                               |
| <input type="checkbox"/> <b>drink</b>                         | <input type="checkbox"/> 酒を飲む、飲み物を飲む、…を飲む   |
| <input type="checkbox"/> <b>a bit</b>                         | <input type="checkbox"/> 副 ((口語) 少し、少々 (同 <b>a little</b> ))                            |
| <input type="checkbox"/> <b>drive ... home</b>                | <input type="checkbox"/> 動 …を車で家に送る (* home は副詞)  |
| <input type="checkbox"/> <b>successful</b> [sʌksésfəl]        | <input type="checkbox"/> 形 成功している (副 <b>successfully</b> うまく)                           |
| <input type="checkbox"/> <b>lawyer</b> [lɔ:jər, lɔ:ɪər]       | <input type="checkbox"/> 名 弁護士 (名 <b>law</b> 法律)  |
| <input type="checkbox"/> <b>convince</b> [kənvinʃ]            | <input type="checkbox"/> 動 …に納得させる、…になるほどと思わせる  |
| <input type="checkbox"/> <b>fill</b>                          | <input type="checkbox"/> 動 …を満たす、…をいっぱいにする  |
| <input type="checkbox"/> <b>dishwasher</b> [dɪʃwɔ:ʃər]-wɔ:ʃ-] | <input type="checkbox"/> 名 食器洗い機  |
| <input type="checkbox"/> <b>switch ... on</b> [swɪtʃ]         | <input type="checkbox"/> 動 …にスイッチを入れる、…を点ける   |
| <input type="checkbox"/> <b>driving test</b> [draɪvɪŋ]        | <input type="checkbox"/> 名 運転免許試験 (* driving は動名詞 (Lesson 90))                          |
| <input type="checkbox"/> <b>fail</b> [feɪl]                   | <input type="checkbox"/> 動 失敗する、(試験に) 落ちる、倒産する<br>(名 <b>failure</b> [feɪljər] 失敗、落第、倒産) |

# Lesson 103

## 分詞構文：否定形

分詞を「…ではなく」という「否定形」にする場合は、分詞の「前」に **not** を置きます。例えば、「わかっていて」という現在分詞 **knowing** を「わからないで」にするには「not knowing」とします。例文で確認しましょう。

### ① **Not knowing how to react, Steve simply laughed.**

- ⇒ わからず・どのように反応すべきか・Steve はただ声に出して笑った。  
→ どう反応したらいいのかわからず、Steve はただワハハと笑った。

次は、過去分詞 **seen** を否定形にした例です。

### ② **This is truly unique, not seen anywhere else.**

- ⇒ これは本当に唯一無二です・(ちなみに) 見られない・いかなる場所でも・他の。  
→ これは、他のどこにも見られない、本当にユニークなものです。

また、「分詞の完了形 (having Vp.p.)」を否定形にする場合は、**not** を **having** の「前」に置いて「**not having Vp.p.**」とします。例えば、**having seen** の否定形は **not having seen** とします。

### ③ **Ted failed to recognize Cathy, not having seen her for 15 years.**

- ⇒ Ted はできなかった・気づくことが・Cathy だと・(それまで) 会っておらず・15年間。  
→ Ted は、15年間会っていなかったため、それが Cathy だとわからなかった。

**never** の場合も **having** の「前」に置くのが一般的ですが、「後ろ」に置くこともできます。

### ④ **Never having been in an earthquake, they were confused.** **Having never been in an earthquake, they were confused.**

- ⇒ 一度もいたことがなく・地震の中に・彼らは混乱していた。  
→ 地震を経験したことは一度もなく、彼らは混乱していた。

●● VOCABULARY

- react (to ...)** [ri:ækt] ... (動) (...に) 反応する (名 **reaction** [ri:ækjən] 反応)
  - simply** [sɪmpli] (副) 単純に、単に、ただ
  - truly** [tru:li] (副) 本当に、実に、真に (形 **true** 本当の)
  - unique** [ju:ni:k] (形) ただ一つだけの、唯一無二の、独自の
  - anywhere** [əni'hwɛə] (副) いかなる場所にも (代) いかなる場所
  - ... **else** [éls] (慣) 他の... (\* else は修飾する語の後ろに置く)
  - fail to Vb** [feil] (動) Vしない、Vできない
  - recognize** [rɛkəgnəiz] (動) ...が誰[何]だかわかる、...の見分けがつく
  - be in ...** (動) <事故・災難など>に遭う (\* 例文④は現在完了形「have been in ...」を分詞に変えたもの)
- 
- earthquake** [ɜ:rθkwèik] (名) 地震 (同 **quake** [kwèik] 揺れ、地震)
  - confused** [kən'fju:zd] (形) 混乱[困惑]した (動 **confuse** ...を混乱させる)

① Ted failed to recognize Cathy, not having seen her for 15 years.

15年間、TedはCathyと会っていませんでした。そのため、TedはCathyを認識できませんでした。

② Never having been in an earthquake, they were confused.

地震に経験したことがないため、彼らは混乱していました。

Ch. 9



# Lesson 104

## 分詞構文：主語の一致と独立分詞構文

分詞構文における分詞の行い手は文の主語と一致します。例えば、次の例文の現在分詞 Removing (…を脱ぐ) の行い手は主語の Cathy であり、「Cathy が…を脱ぐ」という関係が成立しています。

### ① Removing her shoes, Cathy threw herself on the bed.

- ⇒ 脱いで・彼女の靴を・Cathy は投げた・彼女自身を・ベッドの上に。  
→ 靴を脱いで、Cathy はベッドに身を投げ出した。

では、次の分詞構文はどうでしょうか。意図された意味は、「上空から見ると、その島はUの文字に似ている」です。

### Seeing from the air, the island resembles the letter U.

現在分詞 Seeing (…を見る) の行い手は文の主語 the island (島) と一致するので、「島が…を見る」になっています。「島」は「(人)に見られる」ものなので、次のように、過去分詞の Seen (見られる) にしなければなりません。

### ② Seen from the air, the island resembles the letter U.

- ⇒ 見られた場合・上空から・その島は似ている・文字・Uに。  
→ 上空から見ると、その島はUの字に似ている。

次の分詞構文は「君の不運は私のと比べれば何でもない」という意味ですが、compare (…を比較する) を現在分詞の comparing にすると、「不運 (Your bad luck) が…を比べる」になります。「不運」は「比べられる」ものなので、過去分詞の compared にする必要があります。

### ③ Your bad luck is nothing compared to mine.

- ⇒ 君の不運は無だ・比べられた場合・私のと。  
→ 君の不運なんて、僕と比べれば何でもないよ。  
\* 「... is nothing compared to ...」は慣用的な表現で、compared の前にカンマを置かずに用いるのが一般的です。

このように、分詞の行い手は文の主語と一致しなければなりません、これには例外があります。次の2つの例文を見てください。

④ **Considering the price, it is a disappointing product.**

- ⇒ 考えれば・その値段を・それは・である・人を失望させる製品。  
→ 値段を考えれば、それは期待外れの製品です。

⑤ **Judging by his dialect, he's probably from the North.**

- ⇒ 判断すると・彼の方言によって・彼はいる・おそらく・北部から来て。  
→ 彼の方言から判断すると、彼はおそらく北部の出身だ。

④は it (製品) が considering (…を考慮する) というわけではないので、分詞の行い手が主語と一致していません。⑤もまた、he が judging (判断する) というわけではないので同様です。しかし、これらは正しい英文です。分詞の中には、「独立した副詞句」として用いられる慣用表現があります(このような文を「独立分詞構文」と呼びます)。このタイプの分詞は、「…すると」「…すれば」「…するが」という「前提」や「前置き」を表します。以下がよく用いられる慣用表現です。

considering ...	(…を考慮すると)
judging by [from] ...	(…で [から] 判断すると)
speaking [talking] of ...	(…と言えば)
generally speaking	(一般的に言うと)

(注) generally speaking 以外にも、roughly speaking (大雑把に言うと)、strictly speaking (厳密に言うと) のように、「-ly speaking」の形で用いることができます。

●● VOCABULARY

- remove** [rimú:v] .....
- throw** [θróu]
- the air** [ði éər]
- island** [áilənd]
- resemble** [rizémbəl]
- letter** [létər]
- bad luck** [bæd lʌk]
- compare** ...  
(to [with] ~) [kəmpéər]
- disappointing**  
[disəpóintɪŋ, disəpóintɪŋ]
- product** [prádʌkt | prɔd-]
- dialect** [dáiələkt]
- be from** ...
- probably** [prábəbli | prɔb-]
- the north** [nɔ:θ]

- 動** ...を取り除く [除去する、撤去する]、<衣服・靴>を脱ぐ (名 **removal** [rimú:v] 除去、撤去)
- 動** ...を投げる (名) 投げること (\*例文①では過去形)
- 名** 空气中、中空、上空、空
- 名** 島 (名 **land** 土地)
- 動** ...に似ている (同 **look like, be similar to**)
- 名** 文字、手紙 (\*「letter ...」で「...という文字」)
- 名** 不運、悪運、災難 (反 **good luck** 幸運)
- 動** ...を(〜と)比較する (名 **comparison** [kəmpéərəsn] 比較、対比)
- 形** 人を失望させる、がっかりな、残念な、期待外れな (動 **disappoint** ...を失望させる)
- 名** 生産物、製品、商品、産物、成果
- 名** 方言、地方語
- 動** ...の出身である
- 副** おそらく (\*確信の程度を表す副詞は **R17**)
- 名** 北部、北国 (\* **the North** とすることもある)

Ch. 9

# Lesson 105

## 👉 分詞構文：意味上の主語と with 句

次の2番目の文を分詞句に変えて副詞句とし、1番目の文の文末に置いた分詞構文を作るにはどうすればよいでしょうか？

Sandy hung up the phone.

(Sandyは電話を切った)

Tears were running down her cheeks.

(涙が彼女の頬に流れ落ちていた)

文の主語は Sandy で、副詞句にする分詞は running ですが、running しているのは主語の Sandy ではなく Tears (涙) です。このように、分詞の主語が文の主語と一致しない場合は、**分詞の「前」に「分詞の主語」**(これを「分詞の意味上の主語」と呼びます) を置いた分詞構文を作ることができます。

① Sandy hung up the phone, tears running down her cheeks.

文の主語

分詞の主語

⇒ Sandy は切った・電話を・涙が・流れていて・を下って・彼女の頬。

→ Sandy は電話を切った。彼女の頬には涙が流れ落ちていた。

\* ここでの down は「…を下って」という意味の前置詞です。

同様に、次の2番目の文を分詞句に変えて副詞句とし、1番目の文の文頭に置いた分詞構文を作ってみましょう。

The surface of the lake was like a mirror. (湖の表面は鏡のようだった)

There was no wind.

(風がなかった)

2番目の文の was を分詞にすると being になります。being の主語は There で、1番目の文の主語 The surface と一致しません。そこで、There を意味上の主語として being の前に置きます。

② There being no wind, the surface of the lake was like a mirror.

分詞の主語

文の主語

⇒ あって・無の風が・表面・湖の・は・だった・鏡のよう。

→ 風が全くなく、湖の表面は鏡のようだった。

同様に、次の2番目の文を分詞句に変えて副詞句とし、1番目の文の文末に置いてみましょう。今回の分詞は folded という過去分詞です。

Nick stood still. (Nick はじっと立っていた)

His arms were folded. (彼の腕は折りたたまれていた)

③ Nick stood still, his arms folded across his chest.

文の主語

分詞の主語

⇒ Nick は立っていた・じっと・彼の腕が・折りたたまれて・を横切り・彼の胸部。

→ Nick は腕を組んでじっと立っていた。

\* across his chest はなくても通じますが、あった方が意味が明確になります。

\* his arms の his は省略が可能です。one's arms folded (腕が組まれて)、one's legs crossed (脚が組まれて)、one's eyes closed (目が閉じられて) という表現ではよく所有格 (one's) が省略されます。

このような「意味上の主語 + 分詞」は「with + 意味上の主語 + 分詞」の形で表すことができます。例えば、例文①と③は、次の④と⑤のように言うことができます（但し、with は「～の状態で」という意味なので、with を用いることができるのは、分詞が文の述語動詞と「同時点」のことを述べている場合だけです）。

④ Sandy hung up the phone with tears running down her cheeks.

⇒ Sandy は切った・電話を・以下の状態で・涙が・流れている・を下って・彼女の頬。

→ Sandy は電話を切った。彼女の頬には涙が流れ落ちていた。

\* with を用いる場合は意味の切れ目が明確なので、前にカンマを置きません。

⑤ Nick stood still with his arms folded across his chest.

⇒ Nick は立っていた・じっと・以下の状態で・彼の腕が・折りたたまれている・を横切って・彼の胸部。

→ Nick は腕を組んでじっと立っていた。

\* his arms の his は省略が可能です。

with を用いることができるのは、分詞の前に**意味上の主語がある場合**だけです。  
 「with + 分詞」で「…しながら」という意味にはできないので注意しましょう。

✕ Joe hurt his knee with playing basketball.

(Joe はバスケットボールをしていて膝を痛めた)

\* with を削除すれば正しい英文になります。hurt は過去形です。

●● NOTE with + 意味上の主語 + 副詞 [形容詞] (句)

「with + 意味上の主語 + 分詞句」が「with + 意味上の主語 + being + 副詞 (句)」  
 もしくは「with + 意味上の主語 + being + 形容詞 (句)」になる場合はふつう、  
 being を省略します。次の⑥は前者、⑦は後者の例です。

⑥ Ben was running around with no clothes on.

being が省略

⇒ Ben は走っていた・辺りを・状態で・無の服が・身に付いた。

→ Ben は服も着ずに走り回っていた。

⑦ Mike, don't talk with your mouth full.

being が省略

⇒ Mike ・話をしてはいけません・状態で・あなたの口が・詰まっている。

→ Mike、口の中をいっぱいにして話をしてはいけません。

最後に、このレッスンで学習した with 句の表現をまとめておきます。

with + 意味上の主語 +	Ving	( <主語> が V している状態で )
	Vp.p.	( <主語> が V された状態で )
	副詞 (句)	( <主語> が <副詞> にある状態で )
	形容詞 (句)	( <主語> が <形容詞> な状態で )

(注) 「意味上の主語」が「代名詞」の場合は目的格 (me, us, you, him, her, them) にします。

- **hang** ... up  
[hæŋ]
- **phone** [fóun]
- **tears** [tiəz]
- **run**
- **cheek** [tʃi:k]
- **surface** [sʌ:rfis]
- **mirror** [mirə]
- **still**
- **fold** [fóuld]
- **across**
- **chest** [tʃést]
- **with** ... on
- **talk** [tɔ:k]
- **full** [fól]
- **hang** ... up  
[動] ...を(壁などに)掛ける、<電話>を切る (\* hang upで「電話を切る」という自動詞句としても用いる)
- **phone**  
[名] 電話 [動] (...に)電話をする (同 **telephone**)
- **tears**  
[名] 涙 (\*通常、複数形で用いる)
- **run**  
[動] 走る、(滑らかに)進む、流れる
- **cheek**  
[名] 頬、ほっぺた
- **surface**  
[名] 表面、外面、うわべ、見せかけ
- **mirror**  
[名] 鏡
- **still**  
[形] 静止した、じっとした [副] 静止して、じっとして
- **fold**  
[動] ...を折り畳む、...を折る、折り重なる
- **across**  
[前] ...を横切って、...を交差して、...の向こう側に  
[副] 横切って、向こう側に ([動] **cross** ...を横切る [交差させる])
- **chest**  
[名] 胸部 ([名] **bust** [bʌst] (スリーサイズを言う時の) 胸 **breast** [brést] 乳房 **heart** [há:rt] (胸がどきどきすると言う時の) 胸)
- **with** ... on  
[副] ...を身につけて、<電気製品>を点けたままで  
[形] ...を身につけた
- **talk**  
[動] 話す (\* talk は複数の人が互いに話をしているイメージで、speak は一人で話しているイメージ)
- **full**  
[形] (許容量まで) いっぱいの、満ちた、完全な

# Chapter 10

**単語・熟語数：93**

**文法のテーマ：名詞節**

文全体が「名詞」の働きをするものを「名詞節」と呼びます。名詞節は「動詞の目的語」「be 動詞の補語」「前置詞の目的語」「主語」などで用いられます。

主な名詞節は、that 節、if 節、whether 節、間接疑問文です。名詞節を「一語の名詞」と見なし、文の構造を把握することが大切です。







⑤ "Please tell him that Bill called." "OK, I'll tell him you called."

Vt O O Vt O' O' O

↑  
that が省略

- ⇒ 「どうか・伝えてください・彼に・以下のことを・Bill が電話をかけた」「了解です・私は伝えます・彼に・あなたが電話をかけてきたと」
- 「ビルから電話があったとお伝えください」「わかりました。そうお伝えします」
- \* 第4文型の直接目的語に置かれる場合も that は省略が可能ですが、第3文型の他動詞の目的語に置かれる場合ほどは省略されません。

● VOCABULARY

- in trouble** [trʌbl] 副 困難〔苦境〕に陥って、トラブルに見舞われて
- really** [ri:əli] 副 本当に、本気で、実際に
- Absolutely.** [æbsəlu:tli] 慣 ((口語)) 全くその通り。間違いない。もちろん。  
(同 **Definitely.** [dɛfənitli], **Exactly.** [igzæktli])  
(反 **Absolutely not.** 全く違います。)
- strong point** 名 良い点、長所 (同 **good point** 反 **weak [bad] point** 弱点)
- positive** [pɔ:zətiv | pɔ:z-] 形 前向きな、プラス思考の、確信している、自信がある (反 **negative** [néɡətiv] 否定的な、マイナス思考の)
- tell** 動 …に～を言う〔伝える〕(\*これは第4文型の用法で、「～」には名詞、名詞句、名詞節が入る)
- call** 動 電話をする、…に電話する(\*例文⑤では自動詞)

# Lesson 107

## 👉 that 節：形容詞の後ろで用いる場合

sure という単語は「確信している」「自信がある」という意味の「形容詞」です。形容詞は他動詞のように「…を」に相当する目的語がとれないため、「…を確信している、…に自信がある」と言う場合は「sure of …」として、前置詞が目的語をとるようにします。前置詞の目的語には、名詞、代名詞、動名詞、及び名詞節を置くことができますが、名詞節の **that 節は置けません**。例えば、「君はそれがうまくいくことを確信していますか？」を次のように（前置詞 of の目的語に that 節を置いて）表すことはできません。

### ✗ Are you sure of that it will work?

では、どうするかというと、次のようにします。

#### ① "Are you sure that it will work?" "Positive."

- ⇒「君は確信していますか？・以下のことを・それがうまくいく」「確信しています」  
 →「それがうまくいく自信はありますか？」「あります」  
 \* Positive. は I'm positive that it will work. の下線部が省略されたものです。

つまり、前置詞を省略して「形容詞」の後ろに直接「that 節」を置きます（that はよく省略されます）。但し、これができるのは、次のような「心理状態」や「感情」を表す形容詞に限られます。例文と共に確認しましょう。

sure [certain, positive] (that) ~	(~を確信している、~に自信がある)
aware (that) ~	(~を承知している)
afraid (that) ~	(~を残念に思う、あいにく~だ)
worried (that) ~	(~を心配している)
proud (that) ~	(~を誇らしく思っている)
glad [happy, pleased] (that) ~	(~を嬉しく思っている)
excited (that) ~	(~にワクワクしている)
sorry (that) ~	(~を申し訳なく[気の毒に]思っている)
sad (that) ~	(~を悲しんでいる)
surprised [amazed] (that) ~	(~に驚いている)

② "I'm afraid we're all sold out," the clerk said.

- ⇒ 「私は残念に思う・私達が完全に切らしていることを」と店員は言った。
- 「あいにく全部切らしております」と店員は言った。
- \* all は「完全に」(completely) という副詞で sold out を修飾しています。

③ Mike seems proud that he is no longer treated like a child.

- ⇒ Mike は様子だ・誇らしい・以下のことが・彼がもはや扱われていない・子供のように。
- Mike はもう子供扱いされなくなったことを誇らしく思っているようだ。

④ I'm glad you didn't get lost on your way here.

- ⇒ 私は嬉しい・君が迷わなかったことが・君の道中で・ここへの。
- 君がここへ来る途中、道に迷わなくてよかったよ。

⑤ I'm sorry I lost my temper. I really am.

- ⇒ 私は申し訳ない・私が失ったことが・私の機嫌を。私は本当に申し訳ない。
- ついかつとなってしまつてすまない。本当に申し訳ない。
- \* I really am の後ろには sorry が省略されています。本来は I am really sorry. の語順ですが、be 動詞の補語を省略する場合は really を be 動詞の前に置きます。

●● VOCABULARY

<input type="checkbox"/> <b>work</b>	<b>動</b> 正常に働く [機能する]、うまくいく、功を奏する
<input type="checkbox"/> <b>I'm afraid ~ .</b> [ə'fráid]	<b>慣</b> あいにく [残念ながら] ~ です。~しそうで怖い。
<input type="checkbox"/> <b>be sold out (of ...)</b>	<b>動</b> (...が) 売り切れている、(...を) 切らしている
<input type="checkbox"/> <b>clerk</b> [klɜ:k   klá:k]	<b>名</b> 事務職員、((米) 店員、販売員、受付係
<input type="checkbox"/> <b>proud</b> [praúd]	<b>形</b> 誇らしい、自慢である、誇り高い
<input type="checkbox"/> <b>no longer</b> [lɔ:ŋgə   lɔŋ-]	<b>副</b> もはや~でない (* never と同じ場所で用いる)
<input type="checkbox"/> <b>treat</b> [tri:t]	<b>動</b> ...を扱う、...を処遇する、...を治療する
<input type="checkbox"/> <b>get lost</b> [lɔ:st   lɔst]	<b>動</b> 道に迷う (* be lost は「道に迷っている」)
<input type="checkbox"/> <b>on one's way here [there]</b>	<b>副</b> ここに来る [そこへ行く] 途中で (* here と there は way を修飾 (Lesson 26 ②)*を参照)
<input type="checkbox"/> <b>lose one's temper</b> [tɛmpə]	<b>動</b> カツとなる、キレる

# Lesson 108

## 👉 that 節 : It ... that 節の構文

that 節は「主語」で用いることができますが、主語は短くするのが英文の原則なので、that 節を It で置き換え、that 節を文末に移動させるのが一般的です。

**That** ~ V ... (～ということはV…だ)

S

**It** V ... **that** ~ . (～ということはV…だ)

\* 1 番目の文はフォーマルな文で使われることがあります。1 番目の文の That は省略できませんが、2 番目の文の that は(特に会話で)省略されることがあります。

では、「It ... that 節」の例文を見てみましょう。②は that が省略された例です。

### ① It is obvious that this will lead to negative consequences.

- ⇒ それは明白だ・以下のことは・これが(将来)つながる・負の結果に。  
➔ これが将来良からめ結果を招くことは明らかです。

### ② It's wonderful you have such a close relationship with your son-in-law.

- ⇒ それは素晴らしい・あなたが持っていることは・そのような親しい関係を・あなたの義理の息子と。  
➔ 義理の息子さんとそんなに親しい間柄だなんて、とても素晴らしいですね。

また、「It is **Vp.p.** that 節」の形でよく用いられる表現もあります(that は省略が可能)。次の「It is said that ~」と「It is believed that ~」がその例です。

### ③ It is said that Japanese is a difficult language to learn.

- ⇒ それが言われている・以下のことが・日本語は難しい言語だ・身につけるのが。  
➔ 日本語は習得が難しい言語だと言われているんだ。  
\* to learn は difficult を修飾する to 不定詞の副詞用法です (Lesson 76)。

④ It is believed that competition is good for consumers.

- ⇒ それが信じられている・以下のことが・競争は良い・消費者にとって。  
→ 競争があることは消費者の利益になると考えられている。

「it... that 節」の it が「動詞の目的語」に置かれることもあります。次の例文は、第5文型 (SVOC) の目的語に it が置かれ、文末の that 節を指しています。

⑤ I found it strange that neither Pat nor Mr. Lee was around.

Vt O C

- ⇒ 私は思った・それが・変だと・以下のことが・どちらも無・Pat も Lee さんも・がいた・その辺りに。  
→ Pat も Lee さんもその場になかったので変だと思ったんですよ。

● VOCABULARY

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> <b>obvious</b> [ˈɒvɪəs   ɔb-]                        | <b>形</b> 明らかな、明白な (同 clear)  |
| <input type="checkbox"/> <b>lead to ...</b> [li:d]                            | <b>動</b> ...につながる、...をもたらす (同 result in ...)                         |
| <input type="checkbox"/> <b>negative</b> [ˈnɛɡətɪv]                           | <b>形</b> 否定的な、消極的な、負の、マイナスの、陰性の                                      |
| <input type="checkbox"/> <b>consequence</b><br>[kɒnsɪkwɛns   kɒnsɪkwɒns]      | <b>名</b> 結果、帰結、影響、重要性  |
| <input type="checkbox"/> <b>wonderful</b> [wʌndərfʊl]                         | <b>形</b> 素晴らしい、見事な、素敵な   |
| <input type="checkbox"/> <b>relationship</b> [rɪleɪʃənʃɪp]                    | <b>名</b> 関係、結びつき、関わり合い、続柄  |
| <input type="checkbox"/> <b>...-in-law</b> [ɪnlɔ:]                            | <b>名</b> 義理の...  |
| <input type="checkbox"/> <b>Japanese</b> [dʒæpəniːz]                          | <b>名</b> 日本語、日本人 <b>形</b> 日本 [日本人、日本語] の                             |
| <input type="checkbox"/> <b>language</b> [læŋɡwɪdʒ]                           | <b>名</b> 言語、言葉   |
| <input type="checkbox"/> <b>competition</b><br>[kəmpeɪtʃən   kəm-]            | <b>名</b> 競争、競争相手、競技会、コンテスト、コンペ<br>( <b>動</b> compete [kəmpeɪt] 競争する) |
| <input type="checkbox"/> <b>be good for ...</b>                               | <b>動</b> ...のため [利益] になる、...に都合がよい                                   |
| <input type="checkbox"/> <b>consumer</b> [kɒnsju:mə]                          | <b>名</b> 消費者 ( <b>動</b> consume ...を消費する)                            |
| <input type="checkbox"/> <b>strange</b> [streɪndʒ]                            | <b>形</b> 奇妙な、変な、未知の  |
| <input type="checkbox"/> <b>neither ... nor ...</b><br>[ni:ðə   naɪ- nə, nɔ:] | <b>慣</b> ...と~のどちらもない ( <b>慣</b> either ... or ~<br>...と~のどちらか)      |
| <input type="checkbox"/> <b>be around</b>                                     | <b>動</b> その辺りにいる、すぐ近くにいる   |

# Lesson 109

## 👉 that 節：同格で用いる場合

名詞（まれに代名詞）の後ろに「すなわち…」と、それを具体化したり補足する名詞（句）を置くことがあり、この関係を「同格」と呼びます。

### their first daughter(,) Betty

（彼らの長女（すなわち）Betty）

### baseball, his favorite sport

（野球、すなわち彼の一番好きなスポーツ）

### we Americans

（我々（すなわち）アメリカ人）

that 節もまた、同格で用いられることがあります。同格の that 節は、名詞の後ろに置いて、その内容を「すなわち～ということ」と具体的に述べます。

### 名詞 that ～ （<名詞>、すなわち～ということ）

例えば、「事実」という名詞の後ろに「すなわち私達が競争社会に暮らしていること」という that 節を置くと、次のような表現ができます。

### the fact that we live in a competitive society

⇒ 事実・すなわち・私達が競争の社会に暮らしているということ

→ 私達が競争社会に暮らしているという事実

この表現を他動詞 deny の目的語に置くと、次のような文ができあがります。

#### ① One can't deny the fact that we live in a competitive society.

⇒ 人はできない・否定することが・事実を・すなわち以下のこと・私達が暮らしている・競争の社会に。

→ 私達が競争社会に暮らしているという事実は否定できない。

また、「噂」という名詞の後ろに「すなわち Evans 社が倒産しかかっていること」という同格の that 節を置くと、the rumors that Evans is going bankrupt という表現ができます。次の例文は、これを主語に置いたものです。



② The rumors that Evans is going bankrupt are false.

⇒ 噂・すなわち以下のこと・Evans 社がなりかけている・破産状態に・は偽りだ。

→ Evans 社が倒産しかかっているという噂は嘘です。

\* 主語が複数形 (rumors) なので述語動詞は複数形 (are) になります。このように「名詞 + that 節」が主語に置かれる場合は、述語動詞との間に距離ができるので、述語動詞を見失わないように注意しましょう。

同格で用いられる that もまた、会話では省略されることがあります。

③ I have the impression she already has someone in mind.

↑  
that が省略

⇒ 私は持っている・印象を・(すなわち以下のこと)・彼女はすでに持っている・誰かを・頭の中に。

→ 彼女には既に意中の人がいるという印象があるんだけど。

●● VOCABULARY

<input type="checkbox"/> <b>one</b>	代 (総称的に) 人 (同 you)
<input type="checkbox"/> <b>deny</b> [dɪnaɪ]	動 …を否定する、…を否認する
<input type="checkbox"/> <b>fact</b> [fækt]	名 事実、現実、真実
<input type="checkbox"/> <b>competitive</b> [kəmpeɪtətɪv]	形 競争の、競争的、競争力のある (名 <b>competition</b> [kəmpeɪtɪʃən   kɔ:m-] 競争)
<input type="checkbox"/> <b>society</b> [səʊsɪəti]	名 社会、地域社会、協会、学会 (形 <b>social</b> [səʊʃəl] 社会の)
<input type="checkbox"/> <b>rumor</b> [rú:mər]	名 噂、風説、風評 (* ((英)) の綴りは rumour)
<input type="checkbox"/> <b>go</b>	動 ((第2文型)) …になる (* Lesson 33 の表)
<input type="checkbox"/> <b>bankrupt</b> [bæŋkrʌpt]	形 破産した、倒産した
<input type="checkbox"/> <b>false</b> [fɔ:ls]	形 正しくない、偽りの、虚偽の
<input type="checkbox"/> <b>impression</b> [ɪmpresən]	名 印象、(漠然とした) 感じ (動 <b>impress</b> [ɪmpres]) …に印象を与える)
<input type="checkbox"/> <b>have ... in mind</b> [máɪnd]	動 …が頭の中 [心の中、意中] にある、…のことを考えている (動 <b>keep ... in mind</b> …を覚えておく)

# Lesson 110

## 👉 if / whether 節 : 目的語で用いる場合

「～かどうか (ということ)」という意味の名詞節は「if + (完全な文) (これ以降 if 節) か「whether + (完全な文) (これ以降 whether 節) で表します。これらの名詞節は、主として「動詞の目的語」や「形容詞の後ろ」で用います。

know		(～かどうか知っている)
say		(～かどうか言う)
tell		(…に～かどうか言う)
ask		(～かどうか尋ねる)
ask ...	if [whether] ~	(…に～かどうか尋ねる)
wonder		(～かどうか知りたい → ～かなあと思う)
see		(～かどうか確かめる)
(be) sure		(～かどうか確信がある)
(be) certain		(～かどうか確信がある)

(注) whether 節は やや改まった表現です。会話では if 節の方がよく用いられます。

(注) 「(be) sure [certain] if [whether] ~」は否定文か疑問文で用います。(be) sure [certain] が if [whether] ~ を後ろにとる理屈は that 節の場合 (Lesson 107 ①) と同じです。

if 節と whether 節の使い方を例文で確認しましょう。

① I don't know if he is married or single.

I don't know whether he is married or single.

V O

⇒ 僕は知らない・以下かどうかを・彼が結婚しているのか・それとも・独身なのか。

→ 彼が既婚者なのか独身なのか、僕は知らない。

② I'll ask my boss if I can have a day off.

I'll ask my boss whether I can have a day off.

V O'

⇒ 私は尋ねるつもりだ・私の上司に・以下かどうかを・私が取れるか・一日を・休みの。

→ 一日休みを取っていいか上司に聞いてみます。

### ③ Mike, can you go see if Joe is up yet?

V O

⇒ Mike・できる?・あなたは・行って確かめることが・以下かどうかを・Joeが起きているか・既に。

→ Mike, Joe が起きているかどうか見てきてくれる?

\* go and see の and が省略されています (Lesson 73 ⑥)。

\* このようなだけた会話文では whether よりも if を用いる方が自然です。

### ④ I'm not sure if I can make it, but I'll try my best.

I'm not sure whether I can make it, but I'll try my best.

⇒ 私は確信がない・以下かどうか・私にできるか・やり遂げることが・しかし・私は試みる・私のベストを。

→ うまくやれるかどうかわかりませんが、ベストを尽くします。

## ●● VOCABULARY

- |  |   |   |     |                                       |
|--|---|---|-----|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> if ~ (or ...)                         | 名 | ~か (それとも...か)                                       | 副   | もし~ならば                                |
| <input type="checkbox"/> married [mæriəd]                      | 形 | 結婚している  | (動) | get married 結婚する                      |
| <input type="checkbox"/> single [sɪŋɡl]                        | 形 | たった一つ [一人] の、単一の、独身である                              | 形   | engaged [ɪŋɡeɪdʒd] 婚約している             |
| <input type="checkbox"/> whether ~ (or ...)<br>[hwéðər   wéðə] | 名 | ~か (それとも...か)                                       | 副   | ~であれ...であれ<br>(*後者の副詞節では必ず「or...」を伴う) |
| <input type="checkbox"/> day off                               | 名 | 休みの日 (* off は day を修飾。off day にすると「調子の悪い日」という意味になる) |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> Can you Vb?                           | 慣 | Vしてもらえますか? ; Vできますか?                                |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> go Vb                                 | 動 | Vしに行く (同 go and Vb * Lesson 73 ⑥)                   |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> see if [whether] ~                    | 動 | ~かどうかを (見て) 確かめる [確認する]                             |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> be up                                 | 動 | (人が) 起きている  |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> make it                               | 動 | 目的を達する、成功する、時間通りに到着する、(都合を付けて) 会う [出席する、参加する]       |     |                                       |
| <input type="checkbox"/> try one's best                        | 動 | 最善を尽くす、精一杯頑張る (同 do one's best)                     |     |                                       |



③ Our success depends on whether we are willing to take risks.

前置詞

〇

⇒ 我々の成功はかかっている・以下かどうかに・我々に意志がある・取る・リスクを。  
→ 我々の成功は、我々がリスクを取ろうとするかどうかにかかっています。

●● VOCABULARY

- clear** [kliə]      形 明らかな、明白な、晴れた、澄んだ
- missing** [misiŋ]      形 行方不明の
- dead** [ded]      形 死んでいる、枯れている
- will**      名 意志、精神力、遺言(状)
- depend on ...** [dipend]      動 …に依存している、…次第である
- be willing to Vb** [wiliŋ]      動 Vすることをいとわない、Vする意志がある
- take a risk**      動 リスクを取る [冒す] (\*例文③では「複数のリスクを冒す」という意味で複数形)





⑤ What I do is none of your business.

S V

⇒ 何を私がするかということ・は無駄・あなたの関わり事のこと。

→ 私が何をしようと、あなたには関係ないわ。

\* 主語に名詞節を置くのはまれですが、what 節ではよくあることです。

⑥ They argued over who should take out the trash.

前置詞 O

⇒ 彼らは言い争った・をめぐって・どちらが持ち出すべきか・ゴミを。

→ 彼らはどちらがゴミ出しをすべきかをめぐって口論をした。

\* 「人」について「どちら」と言う場合は which ではなく who を用いるのが一般的です。但し、「which + 人」や「which of 人」の形では which を用います。

●● VOCABULARY

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>remind ... of ~</b> [rɪmaɪnd]            | 動 | …に～を思い出させる  |
| <input type="checkbox"/> <b>ex-</b> [ɛks]                            | 頭 | 前、元 (名) ((口語) ex 元の夫 [妻、恋人])                        |
| <input type="checkbox"/> <b>be reluctant to Vb</b><br>[rɪlʌktənt]    | 動 | Vするのに気が進まない、Vしたからない<br>(* Lesson 75 の表)             |
| <input type="checkbox"/> <b>wonder</b> [wʌndə]                       | 動 | ～を知りたい、～かなあと思う                                      |
| <input type="checkbox"/> <b>instead of</b> [ɪnstəd]                  | 前 | …の代わりに、…ではなく (同 <b>rather than</b> )                |
| <input type="checkbox"/> <b>assist</b> [əsɪst]                       | 動 | …を手助けする、…を援助する (同 <b>help</b> )                     |
| <input type="checkbox"/> <b>... is none of one's business.</b> [nʌn] | 慣 | …は～には関係のないことだ。…は～の知ったことではない。(* one's は my, your など) |
| <input type="checkbox"/> <b>argue</b> [ɑ:rgju:]                      | 動 | 口論する、意見を戦わせる、～だと論じる                                 |
| <input type="checkbox"/> <b>over</b>                                 | 前 | …をめぐって、…に関して (同 <b>about</b> )                      |
| <input type="checkbox"/> <b>take ... out</b>                         | 動 | …を持ち出す [取り出す、引き出す]                                  |
| <input type="checkbox"/> <b>trash</b> [træʃ]                         | 名 | ゴミ、がらくた、クズ、つまらないもの                                  |





③ **It's all up to you, so do whatever you want.**

Vt                      O

⇒ それは・である・全て・君次第・だから・しなさい・何でもことを・君が望む。

→ 全部君に任せただから、思い通りにやってくれよ。

\* all は副詞で up to you を修飾しています。

④ **Help yourself to whatever you like.**

前置詞                      O

⇒ 手助けしてください・あなた自身を・に対して・何でも物・あなたが好きな。

→ 何でも好きなものをご自由にお取りください。

whatever と同様の働きをする語に whoever があります。「whatever の間接疑問文」が「こと・もの」を表すのに対し、「**whoever** の間接疑問文」は「人」を表します。

	「誰でも」
whoever + V	誰でもVする人
whoever + S + V	誰でもSがVする人

(注) 1 番目の形 (whoever が主語になる形) の方が 2 番目よりもよく用いられます。2 番目の形は whoever が V の目的語になります。whoever の目的格は正式には whomever ですが、whomever は非常に堅いことばで、通常は whoever を用います。これは、疑問文で whom の代わりに who を用いるのと同じです。

次の例文では、「whoever + V」が前置詞の目的語で用いられています。

⑤ **I'd like to speak to whoever is in charge of recruitment.**

前置詞                      O

⇒ 私は望みます・話すことを・に対して・誰でも人・担当している・採用を。

→ どなたか採用担当の方と話しをさせていただきたいのですが。

ここまで、4つの名詞節 (that 節、if 節、whether 節、間接疑問文) を学習しました。これらの名詞節は、一語の名詞と同じように、「動詞の目的語」「be 動詞の補語」「主語」「前置詞の目的語」に置かれるということを再認識して、次のレッスンに進んでください。

●● VOCABULARY

- mean** [mi:n] ..... 動 …を意味する [言わんとする、言いたい]
- quite** [kwáit] ..... 副 かなり、とても、全く
- be different from** … 動 …とは異なる、…と違う (形 **different** 異なる)
- [difərənt] ..... 名 **difference** 違い 動 **differ** [difə] 異なる)
- up to** … 慣 …次第で、…に任せられて、最大で…まで
- help oneself to** … 動 …を自分で取って食べる [飲む]
- would like to Vb** 慣 Vしたい (\*例文⑨の'dは would の短縮形)
- speak to** … 動 …と話をする、…に話しかける
- in charge of** … [tʃɑ:rdʒ] 副 …を担当 [管理] して、…を任されて
- recruitment** [rikrút:mənt] 名 採用、募集 (動 **recruit** …を採用 [募集] する)



③ That's why I recommend this drug-free treatment.

⇒ それは・理由だ・私が薦める・この薬無しの治療法を。

→ そういうわけで、私は薬を使わないこの治療法を薦めます。

④ This is where we buy the majority of our groceries.

⇒ ここは・場所だ・私達が買う・大半を・私達の食料雑貨の。

→ ここで私達は食料雑貨の大半を購入しています。

⑤ That's when our delivery service is very convenient.

⇒ それは・時だ・我々の宅配サービスがとても便利な。

→ そんな時にとても便利なのが私達の宅配サービスです。

●● VOCABULARY

**in shape** [ɪˈʃeɪp]

形 健康である、体調が良い (同 **fit**)

**learn to Vb** [lɔːrɪn]

動 Vすることを身に付ける、Vできるようになる

**hold** [hóuld]

動 …を(一時的に)手に持つ

**chopstick** [tʃɒpstɪk | tʃɔːp-]

名 箸

**recommend**

動 …を薦める、…を勧める、…を推奨 [奨励] する

[rɛkəmənd]

(名) **recommendation** [rɛkəməndɪjən] 推薦

**drug** [drʌg]

名 薬、薬剤、麻薬

**…-free** [fri:]

形 …無し [ゼロ] の、…が含まれていない

(名) **a duty-free shop** 免税店 (← 関税無しの店)



このような「**分裂型**の間接疑問文」は、間接疑問文が次のような動詞の目的語に置かれる場合の「疑問文」で見られます。

**think** (思う)   **say** (言う)   **believe** (思う)   **suppose** (思う)

次の疑問文は Yes / No で答えられない内容なので、think の目的語に当たる間接疑問文「who you are」(君が誰であるか) の who が文頭に出ています。

③ **Who do you think you are? Some kind of expert?**

↑                      S                      Vt

⇒ 誰だと・君は思っているのだ? ・君が。何らかの種類の専門家か?

→ いったい何様のつもり? 何かの専門家?

\* some は kind を、kind of は expert を修飾。kind of の用法は Lesson 5 の表。

次は、間接疑問文「what you were doing ...」の what が文頭に出た疑問文です。

④ **What did you say you were doing on the night of the 4th?**

↑                      S                      Vt

⇒ 何を・君は言いましたか? ・君がすることになっていたと・夜に・4日の。

→ 4日の夜は何をする予定だと言ってたっけ?

\* were doing は過去 (did you say) から見た未来を表しています (Lesson 25 ③)。

●● VOCABULARY

I'd say ~ .

**慣** 私は～だと思いますが。( \* 'd は would の短縮形)

some 単数名詞

**名** 何らか [何がしか] の < 単数名詞 >

expert [ékspə:t]

**名** 専門家、エキスパート、達人

on the night of ...

**副** ...の夜に ( **副** on the morning of ... ...の朝に  
\* 前置詞を on にすることに注意 (Lesson 2 [NOTE]) )

the 序数

**名** ...日 ( \* 例文④の the 4th (4日) がこれに当たる。  
序数と序数の略語については R25 を参照)

# Chapter

# 11

単語・熟語数：99

## 文法のテーマ：形容詞節

「形容詞」として前に置かれた「名詞」（＝先行詞）を修飾する「文」を「形容詞節」と呼びます。形容詞節は「関係代名詞」「前置詞＋関係代名詞」「関係副詞」のいずれかで始まります。

「関係代名詞」で始まる形容詞節は、後ろが主語や目的語の欠落する不完全な文になりますが、「前置詞＋関係代名詞」や「関係副詞」で始まる形容詞節は、後ろが（5文型のどれかが成立する）完全な文になります。